

平成 18 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社 鶴 弥
代表者名 代表取締役社長 鶴見 栄
(コード番号 5386 東証第 2 部・名証第 2 部)
問合せ先 常務取締役管理部長 稲垣 富定
(TEL . 0569 - 29 - 3740)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 5 月 9 日の決算発表時に公表した平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 . 平成 19 年 3 月期中間業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	6,331	331	192
今 回 修 正 予 想 (B)	6,214	422	233
増 減 額 (B - A)	Δ 116	90	41
増 減 率 (%)	Δ 1.8	27.2	21.6
(ご参考) 前期 (平成 18 年 3 月期中間期) 実績	6,397	448	101

2 . 平成 19 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	12,831	889	536
今 回 修 正 予 想 (B)	12,643	998	562
増 減 額 (B - A)	Δ 188	109	26
増 減 率 (%)	Δ 1.5	12.3	4.9
(ご参考) 前期 (平成 18 年 3 月期) 実績	12,289	896	339

(ご参考) 1 株当たり予想当期純利益 (通期) 80 円 80 銭

３．修正の理由

（中間期）

継続的な住宅の洋風化、同業者間の熾烈な価格競争等により、Ｊ形瓦の需要が減少傾向にあることが主要因となり、売上高は当初予想を下回る見込みであります。以前からのコストアップに対応した販売価格の改定・製造原価（燃料費の価格差異・Ｆ形瓦を中心とした生産稼働率アップ）の低減等により、売上総利益率の水準が向上しております。これにより、売上高が減少する見込みであるにもかかわらず売上総利益額が当初予想を上回り、販売費及び一般管理費等の増加を吸収し、経常利益、中間純利益とも当初の業績予想を上回る見込みであります。

（通期）

通期の売上高におきましては、Ｊ形瓦の需要減少が継続すると予想されると共に、Ｆ形瓦の増産を目的とした阿久比工場第３ライン（Ｆ形棧瓦専焼ライン）の完成が当初計画時期よりずれ込んだため、当初の売上高予想に対し、下方修正することとしました。

利益面におきましては、経常利益・当期純利益は中間期と比較し、販売価格のさらなる競争激化・燃料価格等の変動が予測され、中間期と同水準の売上総利益率の確保が難しく、伸び率は鈍化をするものと見込み、修正することとしました。

以　上